

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2071100339		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ信州中野サンフラワー		
所在地	長野県中野市吉田字中川原1137-1		
自己評価作成日	平成22年8月3日	評価結果市町村受理日	平成23年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

庭には、季節の野菜を育てる為に適した開放的な畑があり、その他庭の空間には日向ぼっこや散歩など、利用者にとって日常生活休息できる癒しの空間がある。 誰もが気軽に立ち寄れる事務所など、スタッフの声が聞ける事業所になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年の外部評価の中で、改善したい内容の3項目のうち、運営推進会議と看取りの指針が改善され、前向きで、真摯な姿勢で事業運営に取り組んでいる。地域とのつながりでは、缶やゴミ拾いなどのクリーンアップ作戦を実施したり、自治区の班との接点を深める努力や、地域と共に歩む暮らしの構築を目指しているが、地域からの理解が若干弱く、課題の一つになっている。介護計画は、センター方式を活用した事業所独自の様式で、フェースシート・アセスメントからモニタリングと細部にまで注意が払われた形式をとっており、利用者の担当制を取り入れて職員を育てると共に、利用者の介護対応がより適格になるよう工夫されていた。2階建という条件の中での災害対策が今後の大きな課題と思われる。消防署・行政・地域からの多くの知恵を仰ぎながら、利用者も職員も安心して暮らせる空間作りを目指すことを期待する。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2071100339&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成22年9月13日		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(高社山)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(千曲川)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1) 5	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有する事は出来ていると思うが、実践につなげていない。	利用者の思いを大切に、それを実現していくことを理念とし、現場の中で実践すべく取り組んでいる。現在、地域密着型に沿った、地域との関係性を盛り込んだ理念を全職員で模索していることを伺った。理念とは、事業所のあるべき方向性を示しているという共通認識が職員に出来ていることが感じられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事への参加や誘い。ご近所のつながりを作っているが、地域のつながりとしては弱い。運営推進会議で発言はしているが、理解を求めるのには一層の努力が必要。	自治会に加入し、事業所の収穫祭や落語会などの行事に招待したり、演奏会などのボランティアの受け入れを行うなど、地域と親しいつきあいをするよう取り組んでいる。地域の方々の受け入れ態勢が弱いこともあり、事業所の思いが空回りすることもある。温かく人と人が触れ合える場作りのためには、一人ひとりの努力が必要であると感じられた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとなり、認知症サポーター講座を開催している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所内の動き等、毎回報告をし参加者と意見交換し、サービスに活かしている。	行政、地域、家族の参加の中、年6回開催され、意見交換も充分に行われている。事業所の課題、地域への協力依頼など、事業所のありのままを透明性を持って議題として提案されている。今後は委員の方に事業所のありのままを見てもらい、率直な思いや意見を聞いて運営に反映させていくことも一考かと思われる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加をお願いするなど、日常連絡をとりあえている。	運営推進会議を通じて事業所の現状の理解を得ている。行政の役職職員による事業所の現場把握や課題認識は不十分である。	災害対策や地域とのつながりなど事業所としてなかなか解決できない課題もある。行政であるから出来ることも多いので、課題解決に向けて、協力していかれることを期待します。現場把握が全ての出発点であるので、行政側から積極的に事業所にアウトプットされることを望みます。

外部評価結果(ツクイ信州中野サンフラワー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員理解はしている。現実として、玄関の施錠は仕方がなくしてしまう事がある。	「身体拘束ゼロの手引き」を土台に学習し、「抑圧感のない暮らし作り」は全職員の共通認識になっている。玄関の施錠は、無断外出者がいる場合で、職員の見守りが困難と思われる時のみ行い、普段は開錠されている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の研修を実施している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度があることは職員は理解をしているが、詳しい研修は行っていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をとり、丁寧に説明する事を心がけている。契約書の重要事項説明書により契約を交わしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応窓口を設け、契約時に説明している。運営推進会議ではご家族の参加を呼び掛け、年に1度、家族会を開催し、受けた意見は必ず検討している。	年1回の家族会、運営推進会議参加の時、面会時などにご家族の思いや意見を聞いている。年12回の行事などの写真を掲載した便りを発行し、利用者の暮らしづくりを伝えている。1～2ヵ月の日常の暮らしづくり、健康面、情緒面などを担当者から伝えていくこともご家族の安心を得る素材になると感じられた。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は定期的にリーダー以上との意見交換を行っている。また、他職員との関係作りにも努めている。	年1～2回、状況に応じて管理者と職員との個別面談を行い、管理者の思い、職員の思いを伝え合う機会を設けている。ユニット単位の会議では、意見を言い易いので、その機会をとらえて職員の提案などを聴取するようにしている。管理者との関係、職員同士、共にコミュニケーションは良く取れていた。	

外部評価結果(ツクイ信州中野サンフラワー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス導入により、処遇改善に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修の場が提供されている。伝達研修等で、スタッフの底上げを行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、ケアマネは交流を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	顔を合わせる段階から心を開いてもらえるような声掛けに努めている。話を傾聴する姿勢も心がけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を聞き安心して入居いただけるよう、信頼関係を築くように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームを希望されている方には、グループホームのサービス内容を説明している。		

外部評価結果(ツクイ信州中野サンフラワー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活をしている者同士の関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様、家族様、スタッフ間の付き合いがあり、良い関係を築いている。足が遠のいている家族へのフォローが難しい。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会時には、居心地の良い時間を提供している。	知人や友人が訪ねて来たり、年賀状に顔写真を添付するなどの支援をし、これまでの関係が途切れないよう取り組んでいる。事業所側から、利用者の希望に応じて、自宅や兄弟の家を訪れ、時には送りをご家族に依頼したりして、近親者との繋がりも大切にしている。ただ、知人などは年々交流の機会が少なくなっていることを伺った。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自分から会話や活動の場に加われない方、共通の会話が見つけれない方には、スタッフが間に入り利用者様同士が関わり合えるように支援している。		
22		関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や手紙など、関係継続の取り組みは現在も行われている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉が困難な利用者様の思いを汲み上げるかは、日々の課題。	センター方式を活用した基本情報から利用者の生活歴や思いを把握したり、コミュニケーションの中から「今」の願いや意見を理解し、実現しようと努めている。農作業、歌、花作りなどの利用者の得意分野も高齢化の中で少しずつ縮小しつつあることを伺った。	

外部評価結果(ツクイ信州中野サンフラワー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、日々の生活の中から、家族様に聞き取り情報収集をおこない、共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンを知るよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族様からは会議前に要望、悩みを聞いている。必要に応じて会議の参加もお願いしている。	利用者やご家族の思いや希望を聞いてセンター方式を活用した課題分析を行い計画を作成している。アセスメントからモニタリングの流れは良く、様式も記録も完備されていた。3ヵ月毎の見直し、心身の状況に応じての見直しも行われていた。利用者の担当制もあり、職員のプランに対する積極的な姿勢を生み出している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケースに記録、担当者、リーダー、計画作成は全記録に目を通してしている。共有することは、申し送りノートを使用している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	送迎や買い物など柔軟に取り組みたいが、今の介護保険の仕組み(スタッフ人数)では、限界がある。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握がうまくなされていない。		

外部評価結果(ツクイ信州中野サンフラワー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前の主治医を継続している方がほとんど。</p>	<p>利用者のご家族の希望するかかりつけ医となっており、通院などの付き添いはご家族となっているが、多くは職員が代行している。医療連携体制が整い、日常的な健康管理、急変時の対応などの連絡調整ができ、適切な医療環境がある。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週1回の訪問看護がある。訪看に備えスタッフ間で情報共有し訪看後も伝達をしている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時はなるべく早く利用様の情報を提出するようにしている。病院関係とのつながり作りも行っている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時、看取りの説明をおこなっている。家族様スタッフに迷いがないように、話し合いも行っている。</p>	<p>重度化や終末期に対する指針があり、ご家族等との話し合いも出来て、理解を得ている。終末期に対しては、医療機関の全面的な協力が必要であり、状況に応じての対応となっている。年々重度化する傾向にあるので、事業所での介護対応のさらなる工夫が必要になっている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救命訓練を行っている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害避難訓練を行っている。夜勤帯、地域の方の協力も今年度の課題。</p>	<p>災害対策マニュアルはあるが、現場での避難訓練が行われていない。2階からの避難、車椅子利用者、非常階段の利用と課題が残されている。スプリンクラーは22年度中に設置予定である。</p>	<p>避難誘導、通報訓練は最低でも年2回(昼・夜想定)実施することを期待します。自動通報装置は非常時には電話利用よりも確実であるので日々の安心を得るためにも設置に向けて努力されることを望みます。手薄になる夜間のために地域との協力関係を築かれることを望みます。</p>

外部評価結果(ツクイ信州中野サンフラワー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの人格、性格等を尊重し、言葉や声掛けにて対応している。スタッフ間では意見交換を行っている。	個人の書類は鍵の掛かる保管庫に収納され、個人情報保護も徹底されている。日頃の言動には、管理者やリーダーが注意を払い、気になる点は、直接職員に改善を促している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフからの一方的な考えを押し付けず、利用者様の思いをなるべく優先出来るように対応している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切に、スタッフの都合を優先させないような対応を心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりがある利用者様は少ないが、更衣時には、声掛けにて決定している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューも利用者様にもっと関わりながら作成したい。季節感に乏しい。	調理の下準備、片付け、洗い物など利用者の力量の範囲で職員と共に行っている。主たる食材は業者に発注しているが、調味料、ヨーグルトなどは利用者と共に、週2回買い出しに出掛けている。メニュー作りに利用者の希望も取り入れているが、今以上に関わりを多くするよう努めている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を把握している。好みの飲料の選択も出来るように工夫している。		

外部評価結果(ツクイ信州中野サンフラワー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケアは出来ている。一方的にならないような声掛けと見守りを行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りオムツの使用は避け、トイレでの排泄支援を行っている。	排泄チェックシートを活用し、排泄パターンを把握しながら、トイレ誘導や声掛けをしている。トイレを利用したの排泄をケアの基本とし、排泄に関しての羞恥心や不安を軽減する配慮もしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼る事が多い。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回～3回の入浴を提供している。	1人週2～3回、1日3～5人、午後、利用者の希望を聞きながら入浴を行っている。重度者には2人に対応し、入浴拒否者には無理強いせず、翌日にしたり、声掛けの工夫で対応している。菖蒲湯などの季節の移り変わりを味わえる工夫もしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、休息時には声がけをし、同意を得ている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬科情報の確認。正確な服薬の支援に努めている。体調に応じて主治医と連携し、服薬調整を行っている。		

外部評価結果(ツクイ信州中野サンフラワー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫物、将棋など、生活歴に沿い取り入れる工夫をしている。花畑、野菜畑はホーム全体で取り組んでいる。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿った支援は追いつかないのが現状です。本人の希望に沿うよう、家族様にも協力を求めている。	日向ぼっこ、事業所周辺の散歩、農作業、花作りなど1日1回は戸外に出て、五感を刺激したり、気分転換になるよう取り組んでいる。買い物、花見、バラ見学、年2回のバス旅行など利用者の希望にそえる外出も実施している。利用者の重度化、現在の職員配置の中で一人ひとりの希望を叶える支援は今後の課題である。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持している方は少ない。希望がある時は、家族様と相談している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を用意し本人の家族様へ出している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホールなどは、鉢植やカレンダーで季節感をだしている。	食堂兼居間の横に段あがりの畳の間があり、寛げる空間になっていた。壁には利用者の書道、塗り絵などの作品が飾られていたが、一部の飾りに季節や状況に応じての取り替えが出来ていない物があり、華やかさや味わいが欠けているように感じられた。窓からは街並み、時折通過する電車、庭の草花と、これまで利用者が馴染んできた当たり前で、のんびりした風景が展開していた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用はホールにのみだが、自由に席を移動し交流の場になっている。		

外部評価結果(ツクイ信州中野サンフラワー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を入れ利用者様個々の空間となっている。	居室は衣類等を収納する括り付けの開き戸の棚だけが事業所で準備した物であり、それ以外は全て、利用者のご家族で思い思いの馴染みの物を配置していた。ベッド、寝具、タンス、仏壇、テレビ、写真などが見受けられ、極めて個性的な居室作りになっており、利用者の性格が透けて見えるように感じられた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、風呂、ゴミ場所を分かりやすく表示。居室入口には、ネームプレート設置。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1) 5	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の視点に沿った基本理念を事務所内に掲示。必要時には、見直しを図り事業所全体で話し合っている。	利用者の思いを大切に、それを実現していくことを理念とし、現場の中で実践すべく取り組んでいる。現在、地域密着型に沿った、地域との関係性を盛り込んだ理念を全職員で模索していることを伺った。理念とは、事業所のあるべき方向性を示しているという共通認識が職員に出来ていることが感じられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の集まりに参加し、地域住民に理解を得られるように努めている。	自治会に加入し、事業所の収穫祭や落語会などの行事に招待したり、演奏会などのボランティアの受け入れを行うなど、地域と親しいつきあいをするよう取り組んでいる。地域の方々の受け入れ態勢が弱いこともある。温かく人と人が触れ合える場作りのためには、一人ひとりの努力が必要であると感じられた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症の理解を深めて頂く為に事業所で様々な研修を積極的に参加している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回運営推進会議を行い、利用者の日常の様子や身体状況等報告し、意見交換を実施している。	行政、地域、家族の参加の中、年6回開催され、意見交換も充分に行われている。事業所の課題、地域への協力依頼など、事業所のありのままを透明性を持って議題として提案されている。今後は委員の方に事業所のありのままを見てもらい、率直な思いや意見を聞いて運営に反映させていくことも一考かと思われる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて意見交換を行っている。	運営推進会議を通じて事業所の現状の理解を得ている。行政の役職職員による事業所の現場把握や課題認識は不十分である。	災害対策や地域とのつながりなど事業所としてなかなか解決できない課題もある。行政であるから出来ることも多いので、課題解決に向けて、協力していかれることを期待します。現場把握が全ての出発点であるので、行政側から積極的に事業所にアウトカれることを望みます。

外部評価結果(ツクイ信州中野サンフラワー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内で研修を行い、身体拘束について学習している。利用者様に対して身体拘束防止に努めている。	「身体拘束ゼロの手引き」を土台に学習し、「抑圧感のない暮らし作り」は全職員の共通認識になっている。玄関の施錠は、無断外出者がいる場合で、職員の見守りが困難と思われる時のみ行い、普段は開錠されている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルをスタッフ間で共有している。研修も行っている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に積極的に参加することにより、伝達研修を設けスタッフ全体で理解に努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、家族様に十分説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議に参加して頂き家族様の思いや意見交換している。	年1回の家族会、運営推進会議参加の時、面会時などにご家族の思いや意見を聞いている。年12回の行事などの写真を掲載した便りを発行し、利用者の暮らしづくりを伝えている。1～2ヵ月の日常の暮らしづくり、健康面、情緒面などを担当者から伝えていくこともご家族の安心を得る素材になると感じられた。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回会議に運営に関する報告を管理者より報告している。	年1～2回、状況に応じて管理者と職員との個別面談を行い、管理者の思い、職員の思いを伝え合う機会を設けている。ユニット単位の会議では、意見を言い易いので、その機会をとらえて職員の提案などを聴取するようにしている。管理者との関係、職員同士、共にコミュニケーションは良く取れていた。	

外部評価結果(ツクイ信州中野サンフラワー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月勤務予定表を作成し労務管理の徹底に力を入れている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や、外部研修を行う事で、職員一人ひとりの、能力を引き出している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員がケアマネ連絡会に参加するなど意見交換されている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴などの情報を収集し事前訪問時には、本人様の要望を傾聴し受け止める姿勢で関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が納得され、不安や要望に関する、話し合いの場を設けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を前提としての話し合いではなく、他のサービスを利用することで、自宅での生活の可能性も視野に入れ話し合いをしている。		

外部評価結果(ツクイ信州中野サンフラワー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ目線で、喜怒哀楽を共にでき何事も一緒に考えていける関係を築くよう努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の広報で、利用者様の様子を伝え、面会時には家族様が気軽に相談が出来るような雰囲気を受け入れている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の元気な姿を、はがき等でお知らせしている。	知人や友人が訪ねて来たり、年賀状に顔写真を添付するなどの支援をし、これまでの関係が途切れないよう取り組んでいる。事業所側から、利用者の希望に応じて、自宅や兄弟の家を訪れ、時には送りをご家族に依頼したりして、近親者との繋がりも大切にしている。ただ、知人などは年々交流の機会が少なくなっていることを伺った。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係をユニット会議や毎日の申し送りで話し合い一人ひとりの役割が持てるように支援している。		
22		関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様が気軽に立ち寄っていただける様に声掛けをしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、コミュニケーションを図り、思いを汲みとる。	センター方式を活用した基本情報から利用者の生活歴や思いを把握したり、コミュニケーションの中から「今」の願いや意見を理解し、実現しようと努めている。農作業、歌、花作りなどの利用者の得意分野も高齢化の中で少しずつ縮小しつつあることを伺った。	

外部評価結果(ツクイ信州中野サンフラワー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集の中から一人ひとりの生活歴など把握し、ご家族に了承して頂いた上で、ご本人から話しを聞いている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	週一回の訪問看護で細かく状態を説明し、一人ひとりの生活リズムを理解するよう心掛けている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりに居室担当者をつけ、様子観察をし、カンファレンス時に意見交換をしている。	利用者やご家族の思いや希望を聞いてセンター方式を活用した課題分析を行い計画を作成している。アセスメントからモニタリングの流れは良く、様式も記録も完備されていた。3ヵ月毎の見直し、心身の状況に応じての見直しも行われていた。利用者の担当制もあり、職員のプランに対する積極的な姿勢を生み出している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況や、日常生活の気づきを具体的に記録し、プランにそったケアを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの要望に応じて、買い物や図書館、自宅への外出支援を柔軟に取り組んでいる。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々にご協力いただき、手遊びや落語によるレクリエーションで利用者に喜んで頂いている。		

外部評価結果(ツクイ信州中野サンフラワー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>馴染みの病院で安心して受診できるよう、主治医は変更せずサービスの一環として付き添いを行っている。又、医療連携の介入により、訪問看護や往診で適切な医療を受けられるようになった。</p>	<p>利用者のご家族の希望するかかりつけ医となっており、通院などの付き添いはご家族となっているが、多くは職員が代行している。医療連携体制が整い、日常的な健康管理、急変時の対応などの連絡調整ができ、適切な医療環境がある。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>週一回の訪問看護で、利用者の状態を伝え適切な対応ができるよう連携をとっている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者の慣れない環境に対する不安を軽減できるよう頻りに面会し、その際医師や看護師と情報交換を行い、退院時の対応についても体制を整えている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご家族と十分な話し合いを行い、スタッフ全員でターミナルケアについての理解を深め取り組んでいる。</p>	<p>重度化や終末期に対する指針があり、ご家族等との話し合いも出来て、理解を得ている。終末期に対しては、医療機関の全面的な協力が必要であり、状況に応じての対応となっている。年々重度化する傾向にあるので、事業所での介護対応のさらなる工夫が必要になっている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>社内研修や、外部研修に参加し、伝達研修でスタッフ全員が学べる機会を設けている。又、マニュアルを把握すると共に救命救急講習を受講している。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災を想定した避難訓練を行っている。</p>	<p>災害対策マニュアルはあるが、現場での避難訓練が行われていない。2階からの避難、車椅子利用者、非常階段の利用と課題が残されている。スプリンクラーは22年度中に設置予定である。</p>	<p>避難誘導、通報訓練は最低でも年2回(昼・夜想定)実施することを期待します。自動通報装置は非常時には電話利用よりも確実であるので日々の安心を得るためにも設置に向けて努力されることを望みます。手薄になる夜間のために地域との協力関係を築かれることを望みます。</p>

外部評価結果(ツクイ信州中野サンフラワー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修で学んだ事を活かし、日常生活の中で利用者一人ひとりの人格を尊重した対応ができるよう努めている。	個人の書類は鍵の掛かる保管庫に収納され、個人情報保護も徹底されている。日頃の言動には、管理者やリーダーが注意を払い、気になる点は、直接職員に改善を促している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位の生活ができるよう、日常の何気ない言葉から気持ちをくみ取れるよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランにそって日課が決まっているが、利用者のペースにあわせた柔軟な対応をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師に訪問してもらっている。整容面では声かけにより自立で行えるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で作った野菜と一緒に収穫し、下準備や調理を利用者と行っている。又、好きなものを随時聞き入れメニューに取り入れている。	調理の下準備、片付け、洗い物など利用者の力量の範囲で職員と共に行っている。主たる食材は業者に発注しているが、調味料、ヨーグルトなどは利用者と共に、週2回買い出しに出掛けている。メニュー作りに利用者の希望も取り入れているが、今以上に関わりを多くするよう努めている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	スタッフ全員でメニューを作成し、バランスの良い食事を提供できるようにしている。又、水分補給が不十分な利用者は、水分摂取量チェックを活用し、記録している。		

外部評価結果(ツクイ信州中野サンフラワー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや見守りにて口腔ケアを行っている。磨き残しがある利用者には仕上げを介助し、口腔衛生に努めている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握することで、誘導により、失敗の不快感を軽減し、各々のできる力を活かした排泄介助を行っている。	排泄チェックシートを活用し、排泄パターンを把握しながら、トイレ誘導や声掛けをしている。トイレを利用したの排泄をケアの基本とし、排泄に関しての羞恥心や不安を軽減する配慮もしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の身体機能に応じて、適度な運動を取り入れ、食事や水分量にも気をつけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、利用者の要望に沿って柔軟に対応している。	1人週2～3回、1日3～5人、午後、利用者の希望を聞きながら入浴を行っている。重度者には2人に対応し、入浴拒否者には無理強いせず、翌日にしたり、声掛けの工夫で対応している。菖蒲湯などの季節の移り変わりを味わえる工夫もしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう、日中はレクリエーション活動を促し、就寝にむけてリズムがとれるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬科情報をまとめて、スタッフ全員が共有している。症状に変化があった場合は、誰もが各医療機関とすぐに連絡がとれるよう事務所内に掲示している。		

外部評価結果(ツクイ信州中野サンフラワー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の趣味や得意分野を引き出し、力を活かした役割を分担しているつもりであるが、関心のない利用者にはニーズを聞き出すのが難しく思う。日々の会話のなかでも新しい情報を得て、スタッフ間で伝達し、ケアプランにつなげている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに花見やバラ見学、足湯など計画して行っている。又、ご家族にもご協力いただき、自宅への外出など、利用者の要望を取り入れている。	日向ぼっこ、事業所周辺の散歩、農作業、花作りなど1日1回は戸外に出て、五感を刺激したり、気分転換になるよう取り組んでいる。買い物、花見、バラ見学、年2回のバス旅行など利用者の希望にそえる外出も実施している。利用者の重度化、現在の職員配置の中で一人ひとりの希望を叶える支援は今後の課題である。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物へは同行するが、お金の管理はスタッフが行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望に沿って、事前にご家族に了承して頂いたうえで電話の使用をしている。又、暑中見舞いや年賀状など、声かけや見守りにより直筆で作成してもらうなどの支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しの眩しい季節はカーテンを閉め、快適な空調管理を配慮している。ホールには季節感を取り入れたオブジェを利用者と一緒に作り、飾っている。	食堂兼居間の横に段あがりの畳の間があり、寛げる空間になっていた。壁には利用者の書道、塗り絵などの作品が飾られていたが、一部の飾りに季節や状況に応じたの取り替えが出来ていない物があり、華やかさや味わいが欠けているように感じられた。窓からは街並み、時折通過する電車、庭の草花と、これまで利用者が馴染んできた当たり前で、のんびりした風景が展開していた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭の日陰に椅子を置き、利用者同士で談笑できる開放的なスペースを用意している。		

外部評価結果(ツクイ信州中野サンフラワー)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた寝具や家具をそのまま使っていただいている。仏壇を持ち込んでいる利用者もあり、花など備えることにより、喜んで頂いている。	居室は衣類等を収納する括り付けの開き戸の棚だけが事業所で準備した物であり、それ以外は全て、利用者のご家族で思い思いの馴染みの物を配置していた。ベッド、寝具、タンス、仏壇、テレビ、写真などが見受けられ、極めて個性的な居室作りになっており、利用者の性格が透けて見えるように感じられた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札を設置し、トイレや浴室にもわかりやすく表示することで混乱を防いでいる。		